DAIKEN

トピックス

２０１８年１０月２日
大建工業株式会社

～森林林業に関わる人材育成の場に、地域産木材を使った木質空間を～

兵庫県立森林大学校に木質化空間「ウッドキューブ」を寄贈

大建工業株式会社（大阪市北区、社長：億田正則）は、この度、森林林業に関わる専門知識等を学ぶ専修学校として、8 月に兵庫県宍粟市で本格開校した「兵庫県立森林大学校」に、兵庫県産木材を活用した木質化空間パッケージ「ウッドキューブ」を寄贈いたしました。寄贈品は、県立森林大学校の玄関部分に設置され、将来の森林林業を担う学生が日常的に木質化空間にふれる場となるほか、イベント等で校舎を利用する市民の方の憩いの場として活用いただきます。

また、9 月 29 日（土）には県立森林大学校本格開校記念式典が開催され、当社は兵庫県より感謝状の贈呈を受けました。

記念式典での感謝状授与の様子
（左）兵庫県井戸知事　（右）当社専務の照林

【寄贈の経緯】

2010 年に「公共建築物等木材利用促進法」が施行されて以降、内装を木質化する取り組みが活発化しており、2017 年に当社が地域限定発売した、国産材を活用したユニット型の木質化空間製品「ウッドキューブ」は、手軽に公共･商業建築物に木の温かさを取り入れられる製品として、ご好評をいただいています。

また、かねてより国産材の活用に注力している当社では、木材の地産地消を推進するため、全国各自治体と連携した取り組みを進めております。

一方、広大な県土の約 7 割を森林が占める兵庫県においては、林業及び木材産業の自立的な発展を図り、森林の有する多面的機能の持続的な発揮及び地域創生に寄与させるため、公共施設の木造・木質化の推進、県産木材を利用した木造住宅の建設促進、身近な木製用品を活用した普及啓発活動の推進といった県産木材の需要拡大や、今回の県立森林大学校をはじめとする県産木材利用促進等を担う人材の育成に取り組まれています。

このような背景のもと、手軽に空間を木質化できる木材活用製品の事例を森林林業関係者や地域住民など幅広い方々に認知頂き、地域木材の活用に拍車をかけることが、健全な森林の運営や地域産業の活性化につながると考え、この度、兵庫県立森林大学校に、兵庫県産木材を活用したウッドキューブを寄贈する運びとなりました。

当社は今後とも、国産材や地域材の積極的な活用を展開し、地域経済の発展にも貢献する取り組みを進めてまいります。

【寄贈した「ウッドキューブ」の特長】

学生向けスペースと市民の方向けスペースにそれぞれ設置。柱などの主要な部材に、兵庫県産杉の集成材を使用しました。床には土足使用に対応するため、大建工業の独自技術である WPC 加工を施した兵庫県産杉を表面化粧材として使用。天井は同杉材を使用したルーバー仕上げとし、開放感がありながら木の温かみが感じられる空間となっています。学生向けスペースの壁面では兵庫県産の杉、松、檜など 9 樹種をパネルにして紹介し、市民の方が利用されるギャラリースペースには、兵庫県産杉のモザイクウォールを設置し、写真や絵を飾ることができるようにしました。

県立森林大学校寄贈した「ウッドキューブ」
（左）学生用スペースには９樹種を紹介するパネル　（右）ギャラリースペースの杉材モザイクウォール

【「兵庫県立森林大学校」について】

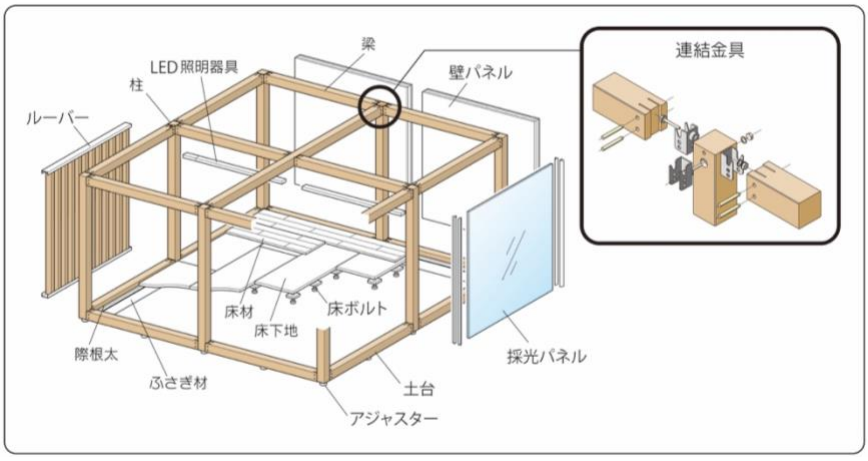
兵庫県で初めての県立森林大学校は、次代の林業を担う人材の養成を行うとともに、森林に関わる人材等を幅広く育成するため、森林林業に関する専門知識等を学ぶ 2 年制の専修学校として、2017 年 4 月、兵庫県宍粟市に開校しました。当初宍粟市一宮市民局内を仮校舎に開校していましたが、今年 8 月、旧宍粟市立染河内小学校跡に移転し、本格開校にいたりました。

以　上

<ご参考>

■「ウッドキューブ」について

「ウッドキューブ」は、国産木材・地域木材を使用した 90mm 角の集成材を使用した柱・梁（はり）・土台（どだい）の３つの主要材で立方体状に構成した基本構造に、床、壁、照明などの部材を組み合わせ、既存の屋内空間に木が醸し出す温かみ溢れる空間をつくり上げるユニット型の木質化空間製品です。
建築躯体に固定する大掛かりな工事を行うことなく設置できますので、商業施設内キッズスペースや、公共施設内オープンスペースの休憩コーナーなど、設置場所の利用用途に合わせて、多様な空間づくりが可能です。国策により利用促進が求められている国産木材・地域木材の新たな活用方法の一つとして提案を進めています。



ウッドキューブの基本的な部材構成

※ここに掲載されている情報は発表時のものであり、ご覧になられている日と情報が異なる場合があります。あらかじめご了承ください。